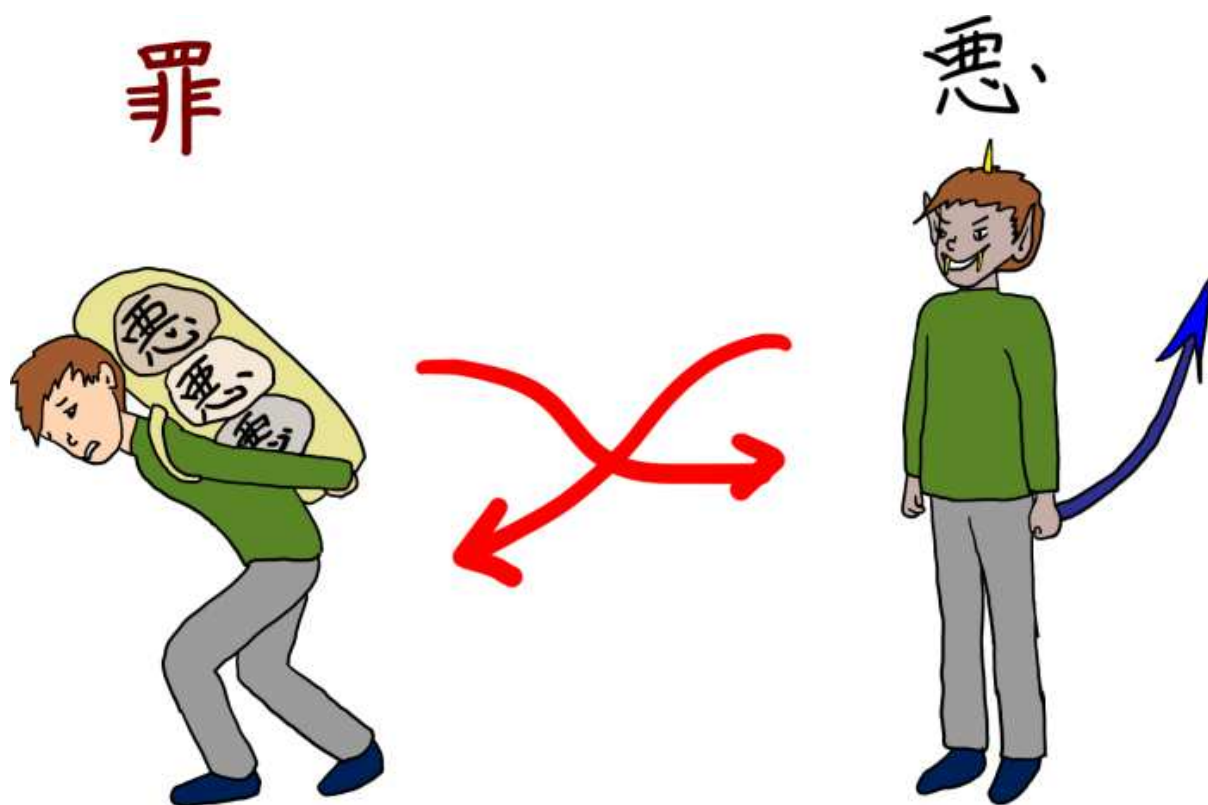


悪と罪の 役割分担



東郷 潤

悪と罪のイメージには、どんな関係性があるのでしょうか？ 哲学的・本質的な話ではなく、言葉のイメージが人間心理に与える影響の話です。



これは厳密な話ではありません。悪と罪は、ほとんど同じ意味で使われることもあるのですから。

悪のイメージは、敵という言葉と対応していきそうです。敵同士が互いを悪とみなすって、ありふれたことですよね。



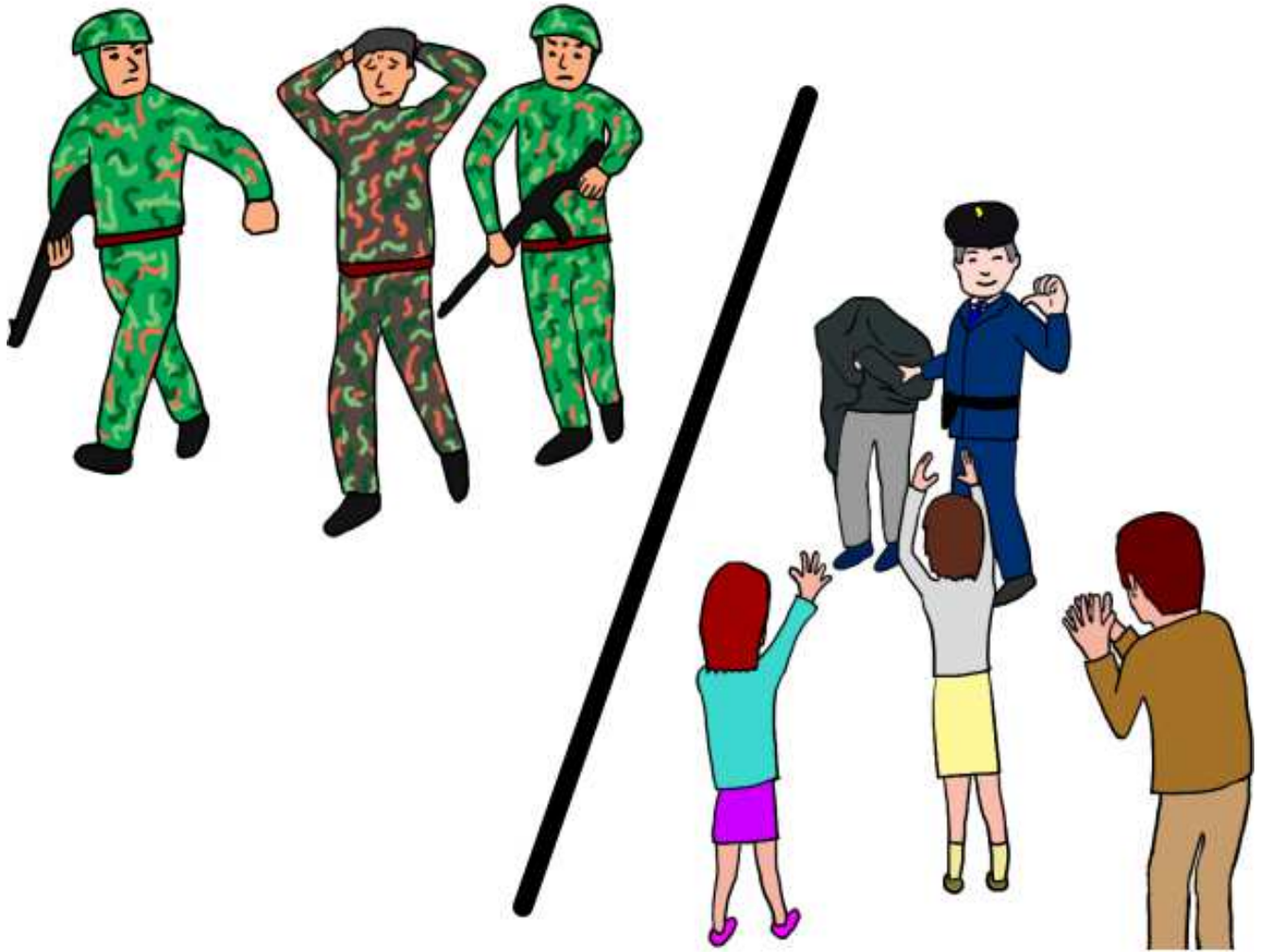
敵同士の関係は対立です。強い・弱いはあるにしても、それは上下関係ではありません。

勝敗の決着がつけば、戦いは終わります。それが国と国でも警察(社会)と犯罪者(社会の敵)でも、普通は強い方が勝つでしょう。



戦いの終わりは、すなわち対立の終わりです。

そして敗者は勝者に従いますね。



この時、両者の関係は、対立から上下
(支配) 関係へと変わっています。ⁱ

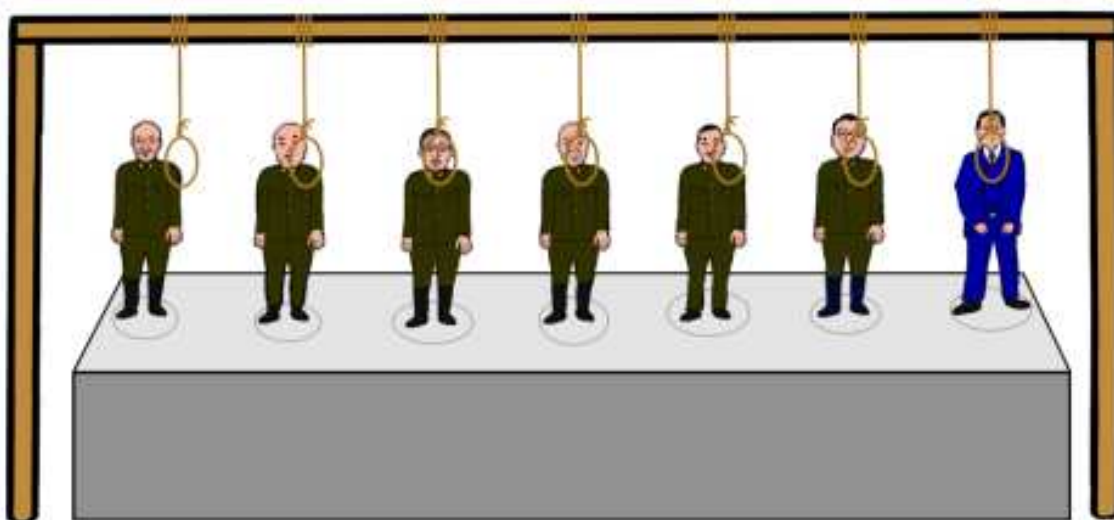
そして勝者は敗者を裁きます。ⁱⁱこれは、**罪**を決めるとも言えますね。

被告人を懲役10年と処す



敗者を敗者の価値観・法律・ルールで裁くことは、普通ありません。敗者の価値観は、負けた時点で強制終了となっています。ⁱⁱⁱ

そして勝者が決めた**罪**に応じて、敗者は**罰**させられます。



ではここで悪と罪における「攻撃」を、ざっと比較してみましょ。これも厳密な話ではなく、それぞれの言葉にこんな傾向があるだろうという話です。

	悪	罪
攻撃対象への認識	悪・敵	罪・罪人
攻撃対象との関係	対立関係	上下（支配）関係
攻撃の方向	双方向	一方向
攻撃の性格	戦い	罰
攻撃の条件・制限	無制限・無条件 ¹	有り

¹ 参照絵本；攻撃命令無制限

<https://www.j15.org/Picturebook-UnlimitedAttack/>

罪への**罰**は、**悪**への**攻撃**よりも抑制的に見えます。負けそうな側が敵に降伏・服従し、あるいは**罪**を告白するのは、攻撃の抑制を期待してのことでしょう。

次に**悪**と**罪**の錯覚生成を比較してみます。善悪の錯覚の生成には多くの心理トリックが使われますが、その中でも心的条件付け（暗示）と二分類はとても重要な要素です。

恐怖を利用した強烈な暗示



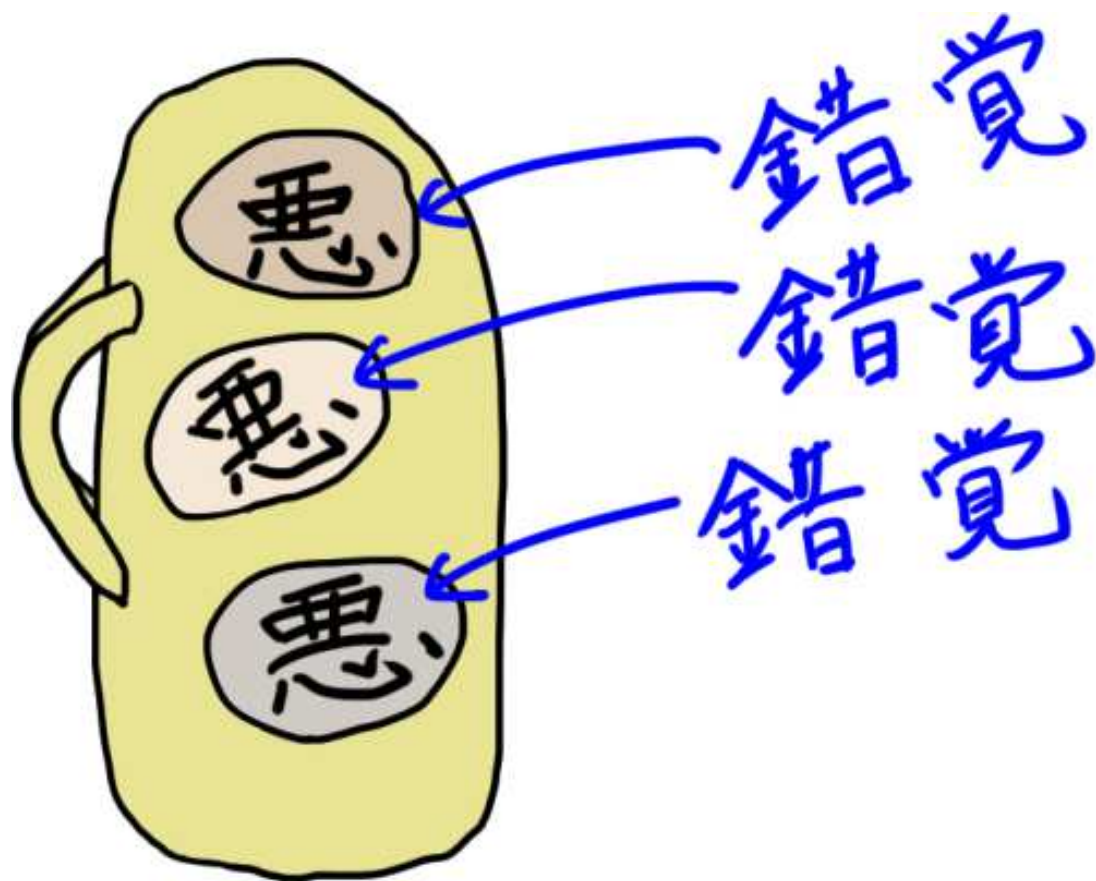
善いことは善くて、
悪いことは悪いんだ



一方で**罪**という言葉には、善悪ほど強い二分類の性質はありません²。つまり**罪**という言葉には善悪という言葉ほどの錯覚生成力は無いと推測できます。

²「善」と「悪」という二つの言葉は、「善悪」という一つの言葉になるほど強く結びついていますが、「有罪」「無罪」は、そこまで強く結びついてはいません。とはいえこれも、厳密な話ではありません。また「罪は罰するもの」という条件付けは存在するでしょう。

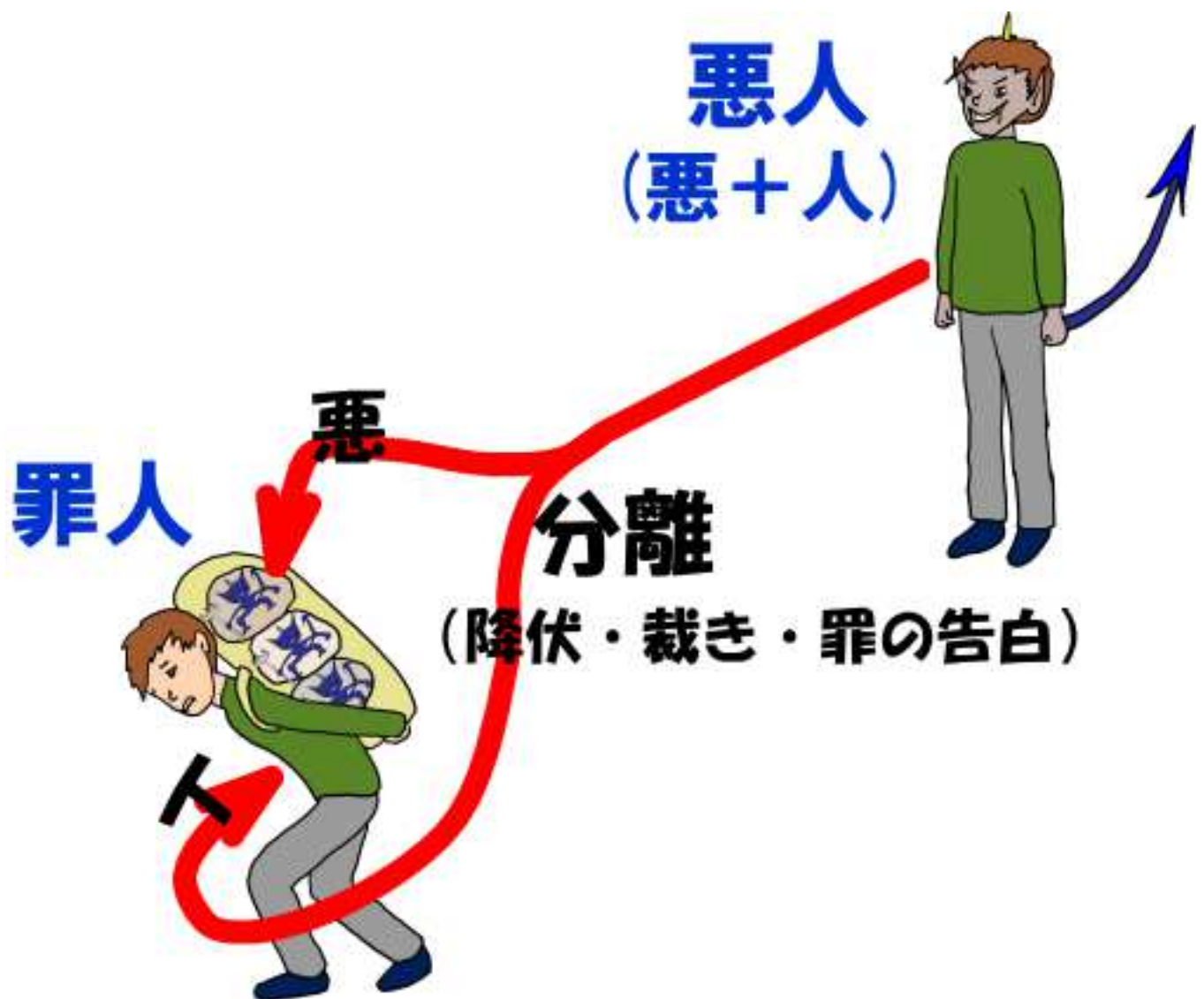
罪という言葉の役割は、錯覚生成というよりは、錯覚の縮小・保存にあるのでは無いでしょうか。³



³ この辺りの心理の詳細については、「善悪という怪物」をご参照ください。

<https://www.j15.org/GoodEvil/index.html>

悪なる敵が罪人へと移行する。それって、あたかも悪が人間から分離され**罪**というリュックへ入るようにイメージできませんか？



普通、人が人を攻撃することには、抵抗感があるものです。けれど敵を悪だとイメージすれば、その抵抗感を減らせます。それは戦いに勝つ可能性を大いに高めてくれるでしょう。

この悪魔め！



しかし勝敗が付けば、高い攻撃性は不要です。そこで悪から**罪**へイメージを変化させ攻撃性を抑制し、かつての敵を社会秩序（の最下層）へ組み込むのです。

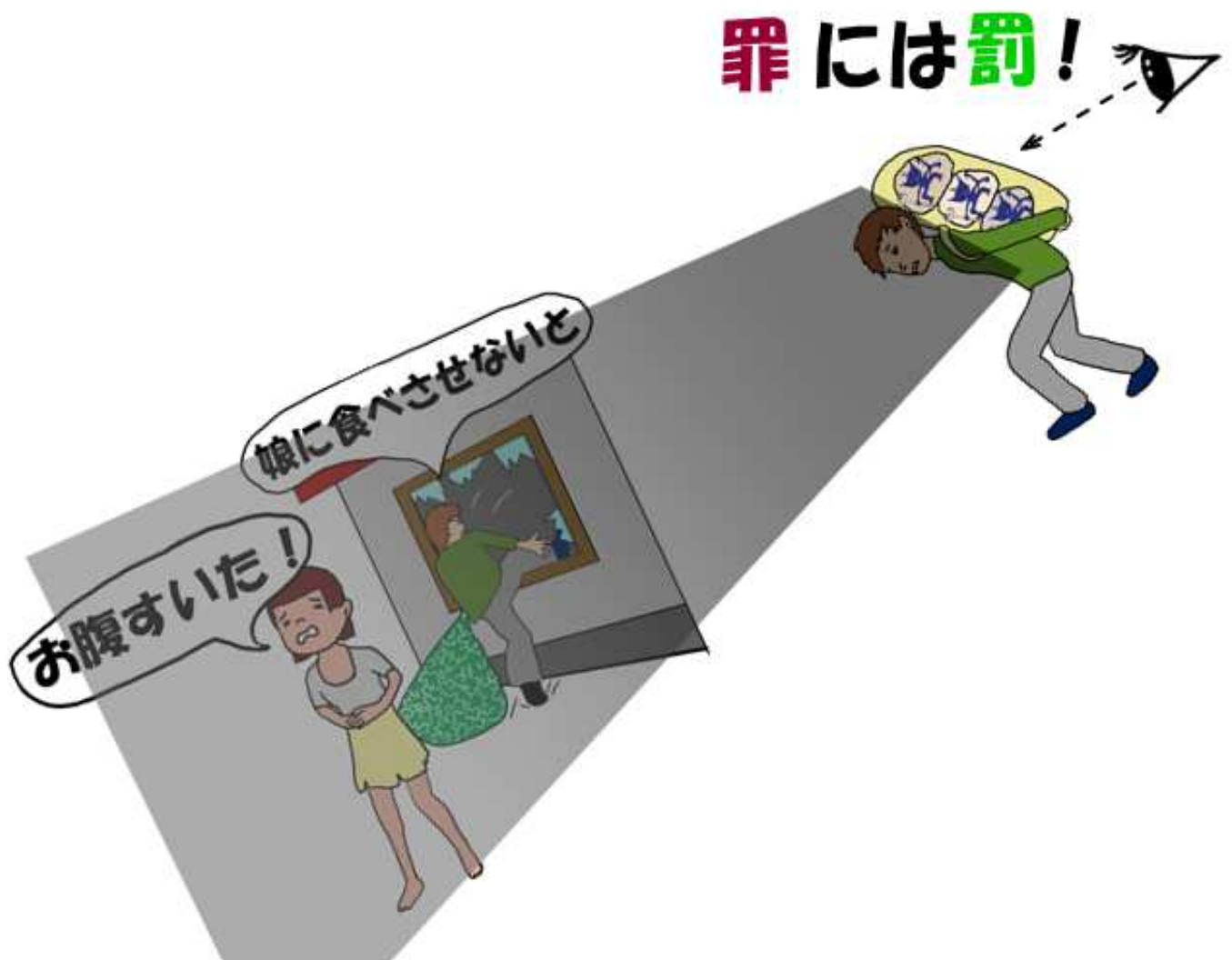


罪に応じて**罰**を与え、**罪**を償なつたと認めて許せば、かつての悪なる敵を仲間（社会の一員）として受け入れることも出来るでしょう。



このように、悪と**罪**のイメージを使い分け、人々は他者への攻撃性を調整しています。

とはいえ悪の錯覚を**罪**のイメージの中に、いわば二重に閉じ込めてしまえば、人々が自ら作り出した錯覚に気づくことは、とても難しくなるでしょう。



これでは根本的な問題解決（なぜ敵となったか／戦争・犯罪の原因・予防など）のチャンスを半永久的に失ってしまいます。

弱者の価値観・ルールを戦いで強制終了。 強者の価値観・ルールを罰で強制。
・・・これって、強者が弱者を力と恐怖で支配することに他なりません。

力と恐怖の支配を
悪と**罪**の役割分担が
隠してはいないでしょうか？



あとがき

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にも読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2017

-
- i 対立が上下関係に変化するといっても、そこにはいろんな段階があるでしょう。心の底から恐れ入ることもあるでしょうし、面従腹背ということもあります。力関係が変われば、上下関係が対立へと変わることもあります。
- ii どんな文化でも誰でも必ず勝者が敗者を裁くということではありません。裁くであろう、文化／錯覚がテーマです。例：水師營の会見
- iii 敗者の心の中なりに抑圧されるということです。参照絵本：罰は闇を生む